



へんな論文

日々勉強や研究に励む大学生は「論文」というものに触れる機会も少なくないだろう。そして、そのような「論文」に対して難しそうや堅苦しいというような印象を持ってしまうことも多いに違いない。しかし、この『へんな論文』はそうした堅いイメージとは真逆のなんともくだらなく、まさに「へんな論文」を紹介する本である。

この本で紹介されている論文の一つに「あくび」に関する論文がある。まず、「あくび」という日常の何気ない行動について真剣に考えている人がいるということに驚くかも知れない。しかし、重要なのは科学的アプローチをもってこの「あくび」について研究していることである。様々な条件で行う対照実験や整合性のとれた論理の展開などは私たちがよく目にする論文と変わらない。こうした過程の下で導かれた結果は大変興味深いものとなる。また、他にも「猫のかわいさ」に注目した論文などが紹介されている。ここでも「猫のかわいさ」という日常的な感情を出発点としながらも、そのかわいさと人に与える心理的な影響の係性を調べ意味づけを行おうと試みている。

ありふれた事柄を学問へと発展させる様子をこの本からは伺うことができる。「論文」を通して研究を知る際、私たちはどうしてもその形式やルールにとらわれてしまいがちである。だが、本当に「論文」を作り上げているのは研究者の疑問と正当な手順を踏んでそこから結論を見つけようとする姿勢である。そのことをこの「へんな論文」達は教えてくれる。

こうして「へんな論文」を読んだ後に、あなたのどうということのない日常を改めて見てみてはどうだろうか。きっと、あなたは何気ない日々が疑問であふれており、大きな可能性を秘めていることに気づくことができるだろう。

『へんな論文』

筆者：サンキュータツオ

出版社：KADOKAWA/角川学芸出版

定価：1,200円（税別）

